

大学院美術研究科 博士前期課程 教員プロフィール

【デザイン専攻】

■メディア研究領域

小笠原たけし(おがさわら たけし)

芝浦工業大学卒業。カシオ計算機研究開発本部にて楽器、オーディオ、映像、通信分野の研究や商品開発をおこなう。その後独立し、ウェブやスマートフォンアプリなど技術とデザインが緊密に連携する仕事に携わる。近年ではセンサーなどの電子回路やプログラム制御のインタラクティブメディア表現を探求し発表している。研究分野はインタラクティブ表現、VR、AR、AI、IoT、ロボティクスなど。著書『プロがこっそり教えるウェブ制作術』、日本 CG グランプリ優秀賞など。

金 多賢(きむ だひょん)

筑波大学大学院博士後期課程修了。大学院在学中にデジタルコンテンツ制作会社を設立し、代表を務める。主な研究分野は、映像を観る人の心理・生理測定を通じた映像に対する嗜好、感動のプロセスを理解する感性研究である。その他に美術教科における ICT 教育の提案、子供向けの美術体験コンテンツの開発、実写とアニメーションを融合させた作品制作を行なっている。

首藤圭介(しゅとう けいすけ)

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科修了。アートを軸にメディアアートや空間デザイン、地域社会マネジメントなど横断的、学際的な制作・研究を行っている。2013 アジアデジタルアートアワード エンターテインメント(産業応用)部門大賞/経済産業大臣賞など。

檀上 誠(だんじょう まこと)

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科修了(メディアデザイン学)。民間企業でゲーム用ムービー・TV 番組用オープニング映像・TVCM・大型展示映像・車両走行シミュレーション映像制作などの業務に 3DCG デザイナーや CG ディレクターとして携わる。主な研究分野は CG デザインであり、CG を活用したコンテンツ制作・研究を行っている。Innovation Circus Milan 2010 ICT track 第1位など。

山口レイコ(やまぐち れいこ)

筑波大学大学院デザイン研究科総合造形専攻修了。アートユニット「パーフェクトロン」の名義で映像制作や展示企画、作品制作など多岐にわたる創作活動を展開している。アートとエンターテインメントを軸とし、受け手の知覚や解釈に着目した表現の構築や、企画から制作に至るプロセスに関する研究・実践を得意とする。代表的な参加作品は、NHK E テレの教育番組「デザインあ」、そのコンセプトを体現した展覧会「デザインあ展」など。

■ヒーリング研究領域

西村愛子(にしむら あいこ)

東京芸術大学大学院先端芸術表現専攻修了。博士(美術)。現代美術および幼児教育を基盤に、人や地域と関わりながらウェルビーイングの向上を志向するソーシャリー・エンゲージド・アートの実践と研究を行う。自治体と連携した空き家活用による多世代交流の居場所づくりや、地域交流事業の企画・運営、ワークショップ、参加型演劇、障害者福祉におけるアート活動などを通して、アートによる地域課題へのアプローチを探究している。

野呂田理恵子(のろた りえこ)

横浜出身。女子美術大学卒業、東京芸術大学大学院修了。環境デザイナーを経て渡英。2007年バーミンガム・シティ大学大学院 MA Art, Health and Wellbeing 修了。美術博士。専門は、社会包摂を目的とするアートワークショップ。病児、重症心身/聴覚障害者、子育て中の人などとの〈芸術と医療・福祉〉のあり方を提案している。NPO エイブル・アート・ジャパン理事、アートミーツケア学会前理事、日本デザイン学会所属。

保高一仁(ほたか かずひと)

多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。アートワークの経験を基に、障害児・者や高齢者を対象とするあたらしい表現手法の開発、芸術療法的手法の開発に携わる。アート・デザインと、医療・福祉領域の越境的研究を行っている。日本芸術療法学会所属。

■ファッションテキスタイル研究領域

眞田岳彦(さなだ たけひこ)

専門は衣服造形、日本の繊維文化研究。博士(美術)。ISSEY MIYAKE で衣服を学び渡英。彫刻家 Richard DEACON にアートを学び独立。30歳で滞在したグリーンランドの体験から「生命・生きる意味」をテーマに衣服造形研究を開始。国立民族学博物館外来研究員として「文化人類学上衣服造形」、愛知県立芸術大学博士課程で「芸術と衣服造形」等を研究。展覧会・地域プロジェクト開催、視覚障害者との学習、執筆等、活動は多岐に及ぶ。著作『考える衣服』(スタイルノート)、『IFUKU 衣服』(六曜舎)他。

山村美紀(やまむら みき)

昭和女子大学大学院生活機構研究科環境デザイン専攻修了、修士(学術)。クリエイティブパタンナーとして(株)ヨウジヤマモト、(株)コムデギャルソンを経て、衣服設計、構成を研究テーマに、ファッション、衣服の可能性について他分野と協働した研究を行っている。「Op Art の手法と透過型液晶フィルムを応用したテキスタイル表現の提案および衣服への拡張」「Fashion and Textile for Augmented Human for Space」「Sympathetic Wear」など。

■アートプロデュース研究領域

日沼禎子(ひぬま ていこ)

1969 年青森県生まれ。女子美術大学芸術学部卒業後、ギャラリー運営企画会社、美術雑誌編集者等を経て、1999 年から国際芸術センター青森設立準備室、2011 年まで同学芸員を務め、アーティスト・イン・レジデンス(AIR)を中心としたアーティスト支援、プロジェクト、展覧会を多数企画、運営。陸前高田アーティスト・イン・レジデンス・プログラムディレクター(2013 年～現在)。さいたまトリエンナーレ 2016 プロジェクトディレクター、ときわミュージアムアートディレクター(2017 年～2023 年)UBE ビエンナーレ推進アドバイザー(2023 年～2025 年)、宇部市野外彫刻展運営委員(2025～)、他を歴任。共著『アーティスト・イン・レジデンス | まち・人・アートをつなぐポテンシャル』(2023 年、美学出版)

潘 逸舟(はん いしゅ)

1987 年上海生まれ、東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了。自らの身体を軸に「土地と人間」「社会と個」の関係性を巡る作品を発表。メルボルン、ニューヨーク、武漢など各地のアーティスト・イン・レジデンスに参加しながら、共同体や個が介在する同一性と他者性について考察してきた。対馬市のアーティスト・イン・レジデンスの運営や地域交流に関わり、美術館や学校でさまざまなワークショップを企画。近年の主な展覧会に「非常の常」(国立国際美術館、大阪、2025 年)、「第 11 回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(クイーンズランド州立美術館/近代美術館、2024 年)、「国際芸術祭あいち 2022: STILL ALIVE」(愛知芸術文化センター、2022 年)などがある。主な受賞、日産アートアワードグランプリ(2020 年)、第 36 回タカシマヤ美術賞(2025 年)、Tokyo Contemporary Art Award 2026-2028(2026 年)

■ヴィジュアルデザイン研究領域

浅野晃成(あさの あきなり)

1964 年東京生まれ。多摩美術大学デザイン科グラフィックデザイン専攻卒業。日本デザインセンターにてアサヒビール、東京電力、トヨタ自動車などの CI プロジェクトおよび広告の制作に携わる。独立後、企業やミュージシャンのアートディレクション及びデザインを手がける。

栗辻美早(あわつじ みさ)

1965 年東京生まれ。1988 年多摩美術大学デザイン科グラフィックデザイン専攻卒業。1991 年 CRANBROOK ACADEMY OF ART デザイン科(USA)修士号を受ける。TAMOTSU YAGI DESIGN (USA)を経て、1995 年株式会社栗辻デザイン設立。ショップ等のブランディングデザインその他、ホテルグラフィック、パッケージなど、グラフィックデザインを中心に、サイン、空間プロデュースまで幅広く活動。

長崎訓子(ながさき くにこ)

1993 年多摩美術大学染織デザイン科卒業。イラストレーター。書籍の装画や挿絵、刺繍の図案、映画に関するエッセイなどで活動中。近年の装画の仕事として『武士道シックスティーン』『億男』など。漫画の作品集に『Ebony and Irony 短編文学漫画集』、『MARBLE RAMBLE 名作文学漫画集』(第 19 回メディア芸術祭マンガ部門審査委員会推薦作品)がある。

■ヴィジュアルデザイン研究領域

林 規章(はやし のりあき)

1964 年岐阜県生まれ。1987 年名古屋芸術大学卒業。卒業制作買上げ。ジャパングラフィックス名古屋事業所においてグラフィックデザイナーとしてキャリアをスタート、花王株式会社作成部アートディレクターを経て、HAYASHI DESIGN 主宰 視覚伝達を通して、図像の特質を見出し、コミュニケーションの核心を探っている。『ブルーノ・ムナーリの本たち』(BNN 新社／高等学校教科書美術 1 光村図書掲載)、『ウィム・クロウェル 見果てぬ未来のデザイン』(BNN 新社)、『デザイン あ ゐるほん』(金の星社／NHK)、長沢慎一郎『Mary Had a Little Lamb』(赤々舎／第 49 回木村伊兵衛写真賞受賞)のブックデザイン、2026 年 国立成育医療センター 女性の健康総合センター『ICWH』のヴィジュアルアイデンティティおよび VI 計画を担当。世界各国美術館等にて講演および作品を発表、収蔵。NY ADC 特別賞、JAGDA 新人賞、THE ONE SHOW DESIGN Gold Pencil、東京 ADC 賞、東京 TDC 賞、JAGDA 賞、第 27 回亀倉雄策賞など受賞。AGI(国際グラフィック連盟)会員、東京 ADC 会員
<https://www.hayashinoriaki.com>

■プロダクトデザイン研究領域

廣田尚子(ひろた なおこ)

1990 年東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。GK インダストリアルデザインを経て 1997 年ヒロタデザインスタジオ設立。2006 年女子美術大学特任助教授、2012 年から現職。プロダクトデザイン、社会におけるデザインの役割、仕組みのデザインを研究。

■環境デザイン研究領域

後藤浩介(ごとう こうすけ)

1987 年九州芸術工科大学芸術工学部(現九州大学芸術工学部)工業設計学科卒業。GK 設計にて環境デザイン/パブリックデザインに従事。2003 年東京大学新領域創成科学研究科環境学専攻社会文化環境コース修了。同年、女子美術大学短期大学部特任准教授、2009 年より現職。ストリートファニチュア・パブリックプロダクト等を通して、場所・モノ・生活の関係を研究。

吉田貴子(よしだ たかこ)

1988 年京都市立芸術大学美術学部デザイン科卒業。近藤康夫デザイン事務所を経て 1995 年吉田貴子デザインスタジオ設立。主に、店舗空間や商業施設の環境デザインに携わり、多数の店舗デザインを手がけながら、商業の進化や業種業態の多様化を踏まえ、よりハイブリッドな店舗空間やサービス空間のデザインのあり方を研究。